

## 第 12 回 加賀温泉駅施設整備検討委員会 議事録

### ■会議概要

- ・日時 : 2021 年 11 月 18 日 (木) 15:00～
- ・場所 : 市役所別館 3 階 302 会議室
- ・出席者 :

出欠	所属・職	役職	氏名
出	金沢工業大学 教授	委員長	水野 一郎
欠	金沢大学 名誉教授 公立小松大学 特任教授	副委員長	高山 純一
出	加賀市商工会議所 総務企画委員長	委員	竹内 和良
出	山中温泉観光協会 会長	委員	桂田 史朗
出	山代温泉観光協会 会長	委員	萬谷 正幸
出	片山津温泉観光協会 会長	委員	金子 達郎
出	加賀商工会議所女性会 顧問	委員	丸谷 朱美
出	加賀市美術協会 理事長	委員	長谷川 清
出	古場田デザインスタジオ プロダクトデザイナー	委員	古場田 良郎
出	加賀まれびと交流協議会	委員	師池 敬子 代理：高野 宣也
出	かが緑化研究会 会長	委員	田畑 智日
出	山代温泉旅館協同組合 理事長	委員	新滝 英樹
出	加賀まれびと交流協議会 副会長	委員	小中出 佳津良
出	石川県土木部都市計画課 課長	委員	竹内 憲一 代理：村本 信夫

(事務局) 加賀市土木部 嶽野部長  
 新幹線対策室 屋後室長、寺山リーダー、田中、篠籬  
 株式会社日本海コンサルタント 小滝、小坂、米島

## ■議事概要

### (1) 広場計画の変更について

歩行者空間を拡大する今回提示案については、概ね了承とする。ただし、ラウンドアバウトからバスロータリーに入るところの横断歩道手前の滞留長について、ラウンドアバウト協議会にアドバイスをいただくなど検討していく。

### (2) 広場活用について

ハード整備だけでなく、ソフト整備についても議論する時期が来たと考える。常にイベントを開催しなければならないと考える必要はないが、にぎわいづくりのため、まれびと協議会、3温泉観光協会、旅館協同組合、商工会、学校などが集まって議論していく必要がある。

## ■議事詳細

### 1. 水野委員長挨拶

新幹線工事の遅れやコロナ禍など、前回の検討委員会から大きく情勢が変化した。加えて、加賀市でもデジタルを使ったまちづくりを推進していくことも踏まえ、加賀温泉駅周辺のまちづくりプロジェクトを見直す機会が来たと考える。このため、急遽検討委員会を開催する運びとなった。これから実施設計に移るまでの時間的余裕がなく、皆さまから忌憚のない意見をいただき設計に反映させていきたいと考える。

### 2. 屋後室長より計画変更経緯の説明

加賀温泉駅周辺の新たなまちづくり構想として、医療センター南側に未来型商業エリアの整備、作見松ヶ丘に未来型の居住エリアの整備を計画している。コロナ禍を含めて 2020 年から大きく変化した社会情勢を踏まえ、駅前に求められる空間・機能が変化してきている。また、国土交通省は今後のまちづくりの方向性として、車中心の社会から人中心のまちづくりを推奨している。加賀市としてもスマートシティ社会、スーパーシティ構想等の新たなファクターを考慮して、駅前広場計画の一部見直しを行いたいと考える。具体的には交通広場の面積について、現状のバスの運行状況や今後の新たな交通施策に対してはやや面積的に過剰であり、若干広場歩道部を拡張することが適切であると考えられた。歩行空間が増えることで密になりにくく、開放的な空間となる。また計画修正により環境空間比が 40%から理想的と言われる 50%に増加することとなる。しかしながら、交通広場面積の減少により駐車配置・駐車台数に影響が発生する。旅館送迎バスの駐車台数が 21 台から通常ピーク時の台数である 16 台に変更となる。当初計画との差の 5 台分についてはロータリー内部に確保するものとした。台数的に 21 台停車できるということについて変更は発生しない。観光バス駐車台数は当初 10 台必要としていたが、これにより交通広場の面積が大きく必要となっていた。提示案では駐車台数が 5 台となっているが、今回の広場計画の変更が当委員会で承認されれば、詳細設計の中でバスの軌跡を検討のうえ、不足する台数分については医療センター駐車場内に確保する方向で調整したいと考えている。

### 3. 変更計画に対する意見交換

- ・田畑) 歩行者空間が拡大することだが、屋根は設置されるのか？
  - 屋後) 屋根は計画変更に合わせて設置される。具体的な内容について詳細設計にて検討する。詳細設計では植栽計画を含めて検討を行う。
  - 水野委員長) 途中は空が見える。広場や緑の外部の余裕ができた。
- ・萬谷) 図面薄緑色の着色部は植栽か？
  - 屋後) ラウンドアバウト内は視距確保のため芝とする。また今回の計画修正に伴い、駅舎と美術館と間に歩行者動線ができる。庭園部との間は歩けるスペースを想定しているが、詳細設計にて検討を進めていく。
- ・萬谷) ゼブラ上は車両が通行できるのか？
  - 屋後) ゼブラはラインのみであり縁石等は設置しないため、通行可能である。なおバスロータリーは一方通行となる。ガレリア南側の広場の詳細は今後検討する。
- ・萬谷) 歩道スペースはイベント利用を想定したものなのか？
  - 屋後) 加賀温泉駅 50 周年の記念イベントでコロナ禍の中でも多数の来場者でにぎわった。新たな歩行者空間はオープンテラスとして利用するなど、積極的に出してもらい、

にぎわいのある駅前広場としたい。

- ・金子) 北陸の冬場はほとんど雨であるため、新たに計画された横断歩道にもランドスケープ上、邪魔にならない程度の屋根がほしい。金沢では屋根がなく添乗員が傘をさしている状態だが、これでも雨に濡れてしまい、おもてなしの心があるのかと思われてしまう。設計図が全体的にカクカクしており未来的でないため、丸みを帯びたデザインに変更してほしい。
  - 屋後) 今回提示案はたたき台であり、これから詳細設計を行う中で検討していき、検討委員会に見ていただきたいと考える。
  - 水野委員長) 今回の計画修正に伴い、美術館入口にもコロネードを設置した。
- ・小中出) 交通広場に向かうラウンドアバウトと横断歩道の間が 13m しか確保されていない。横断歩道を歩行者が横断し滞留部にバスが停車した場合、ラウンドアバウトの動きが滞ってしまうのではないかと？
  - 屋後) 13m は大型バス 1 台分が停車できるスペースであり、大型バス 1 台であればラウンドアバウトの動きに影響はない。
- ・竹内) 旅行会社が拠点の駅を選ぶ際、バス待機場の数をひとつの指標としているらしい。観光バス駐車台数が減少するという事は好ましくないのではないかと？
  - 屋後) 観光バスについては乗降が主体となる。乗降にかかる時間を考慮すると駅前の 5 台と病院駐車場に対し、市が推進している ICT と連携することでスマートな運用が可能となると考える。
  - 竹内) 病院側の駐車場は大型車が入れる構造となっているのか？
    - 屋後) 現在は大型バスが入れる構造となっていないが、病院前のロータリー一部は大型 2 台、中型 2 台が待機できる。不足分は病院駐車場の改良や近隣に待機場でスペースを確保することを考えている。病院側としては、平日は混雑するため避けてほしいとの意見をいただいている。
- ・古場田) 変更案の大義が見当たらない印象を受ける。特に大型バスが使いにくい、回りにくい配置となっている。冬季にたまった雪が歩道側に跳ねてしまわないか？北陸は 1 年の半分は雨のため、歩行者空間を有効に利用できるのか？新設する横断歩道に屋根を設置してもバス通行のため高さを確保する必要があり、結果として横雨が入り込みずぶ濡れとなる。総合的に変更する理由が見当たらないと考える。
  - 屋後) 当初案では他の先進事例と比べると車空間の比率が高く、この部分を歩行者空間とすることでよりにぎわいが生まれると考える。
  - 水野委員長) 新幹線駅は開通後に変更が行われているケースが多い。金沢駅でもリントの壁を取り壊し、ショウウィンドーに改修している。それに続きハイアットにもスターボックスが進出し、にぎわいを生んでいる。全国的にも車を減少させてにぎわいを生もうとする動きがある。
- ・高野) 現状、加賀温泉駅には人がおらず、平和堂もテナントの集客に苦勞している状況である。この場所でイベントを行うというのは「絵に描いた餅」であるように思える。もともと風が強く寒いため、利用しにくく、バスエリアを縮小してまで行う意義を感じない。
  - 屋後) 今までにはイベントスペースが存在しなかった。そのために人が少ないともいえる。新幹線開通を起爆剤とし、積極的にイベントを仕掛けていく予定である。
- ・丸谷) 新幹線開業が遅れることでバス利用者が減少し、中型バスがメインとなる可能性も考えられる。変化に対応できる柔軟性のあるものとすべきであると考え。
  - 水野委員長) コロナ禍により金沢駅では観光バスはほとんど停車していない。フレキシ

ブルな対応が必要となる。

- ・長谷川) 最近、加賀温泉駅で人の動きが出てきたが、電車から出てくる人は少ない印象を受ける。電車事故が多く発生し、電車から人が離れているのではないかと個人の車は多い印象を受ける。美術館前に横断歩道を設置することに関しては大変嬉しい。送迎バスの運行と重なる14時～16時(着)、10時～12時(帰)は人が多い。すごく素晴らしい変更案だと思う。ただし、バスの利用状況の変化は読めない。
- ・田畑) 横断歩道の屋根を高くすると吹き込みが大きくなる。また、ガレリアとコロネードの間も屋根とする方が良い。
  - 屋後) 今回は平面図のみしか提示できなかったが、歩行スペースの屋根は低く、大型バス乗降部の屋根は張り出して高くする予定である。
  - 水野委員長) バス乗降部屋根の高さは4.5m、一般歩道部は3.0mの2段構造となる。
  - 田畑) 了解した。
- ・桂田) 空間の活用方法を考えると旧計画では難しいと考えられる。駅前広場を自由度が広がるソフト面の整備も必要である。タクシー乗場にバスを乗り入れるなど柔軟な運用を検討してはどうか？
  - 屋後) バスロータリー一部は路線バス、観光バス、旅館送迎場バスにこだわらず柔軟な対応を検討している。ただし、小型車と大型車の混在は安全性の面から厳しいと考える。
- ・新滝) 観光客の送迎は駅構外で行うよう指導されている。加賀温泉駅が整備された際はどこで送迎すればよいのか？
  - 屋後) JR側との運用に関する協議ができていない状態であるが、ガレリアでの送迎は可能と考える。駅舎内での送迎については今後協議していく。
- ・竹内) 資料にページ番号を入れてほしい。
  - 長谷川) 事務局の名前も記載してほしい。
  - 屋後) 申し訳ないです。次回から対応します。
- ・水野委員長) 北陸新幹線から駅正面が人の場となってきた。加賀温泉駅は北陸新幹線の中でも屋根がかかっている量は一番多いと思う。横断歩道を濡れないようにするには屋根を大型化するしかないが、おそらく濡れてしまうと思う。
- ・古場田) 右上のイベント広場は新幹線駅舎に風が当たると、風が左右に流れ込むことが考えられる。風への対策は検討しているのか？
  - 水野委員長) あまり心配する必要はないと思う。
- ・新滝) 新設する横断歩道は駅から美術館の回遊性を高めるので良いと思うが、ラウンドアバウトと横断歩道の距離が短いと感じ、複数台続いた場合に事故が発生しないか不安である。横断歩道によりラウンドアバウトの運用に悪影響が出ないか？プロなら心配いらぬかもしれないが、旅館送迎バスは心配である。
  - 水野委員長) 交通専門のコンサルで検討してもらう。
  - 屋後) ラウンドアバウト協議会と情報交換しながら相談する。ラウンドアバウトを周回することも考えられる。石川県ではラウンドアバウトの事例は少ない。交通安全研修等で利用方法を周知していくことも考えられる。
- ・金子) 左側1番下のバス乗降場に停車するのは至難の業。横断歩道までの間の13mは短すぎないか？
  - 屋後) バス駐車場の配置は車両軌跡で検証している。詳細設計では確実に停車できるよ

うに線形を検討する。

- ・水野委員長) 上越妙高駅では駅舎沿いを竹林とした。広場空間を水と緑のスペースとすることが考えられる。
- ・水野委員長) マイカーの時代がいつ終わるのか、公共交通の時代をどうやって地方自治体は迎えるのか。金沢では巡回バスが人気である。どうやって運用していくか、関係者が集まって議論する場が必要である。エリアマネジメントを考えていく必要がある。金沢駅ではリント、ハイアット、金沢市が予算を出し合って屋根を整備した。このような調整していく機能が重要となる。
  - 屋後) ハード以外のソフト面についても今後検討していきたい。
- ・水野委員長) 東京ではキッチンカーが人気である。
  - 屋後) 加賀温泉駅でもキッチンカーを呼び込める整備を検討していきたい。ベンチやテーブルを設置し、ピクニックのように使える屋外の場を整備していきたい。
- ・水野委員長) 金沢ではイベントの発着点を駅にする動きがある。にぎわい拠点とするプログラムを考えていくとともに皆で盛り上げていくことが必要である。山代の菖蒲祭り、山中の獅子も駅に出てくるといい。
  - 屋後) まれびと協議会、3温泉観光協会、旅館協同組合、商工会など、関係者が集まって議論していくようにしたい。
  - 水野委員長) 学校教育も。
- ・田畑) 本議案は決をとって決定するのか？
  - 屋後) 本協議をもって承認とさせていただきたい。
  - 田畑) 賛成。
  - 竹内) 賛成だが、JRとの話合いの場をもって柔軟な対応をお願いしたい。
  - 高野) イベントありきの計画であり基本的に反対である。イベントは恒久的にできるわけではなく、お金もかかる。
  - 古場田) イベントを開催する側にも負担がある。イベントについてはガレリアだけで十分ではないか？更にイベントの場を増やすことについては疑問が残る。回答は保留とさせていただく。
  - 水野委員長) イベントは自然発生的に生まれてくるのが望ましい。加賀温泉駅を拠点としてどうしていくかは加賀市民にかかっている。駅という拠点を利用して可能性を探ることは必要だと思う。
  - 田畑) イベントスペースを最初から用意しておくことは良いと思う。イベントのためのスペースこだわる必要はない。
  - 長谷川) 駅を送迎だけのスペースとするべきではない。有効な使い方を考えていく必要がある。各地区にバラバラになっているものを駅に集約する必要がある。
  - 屋後) 本検討委員会でいただいた意見・課題を参考に今後、計画検討を進めていく。